

社会科学学習指導案（地理的分野）

日 時 平成26年5月30日（金）第1校時

対 象 2年4組（男子20名 女子20名 計40名）

指導者 教 諭 恒 見 順 子

1 単 元 「中国・四国地方」

2 単元の考察

本単元は、大単元「日本の諸地域」の中単元の1つである。本単元では、人口や都市・村落を中核として、その地域的特色をとらえさせることをねらいとしている。中国・四国地方には、地方中枢都市である広島市を中心として、山陽新幹線の沿線や瀬戸内工業地域が広がる瀬戸内海沿岸に人口が多く集まり都市化が進み、過疎地域が見られる。その一方で、鳥取県や島根県、高知県といった人口の少ない県もあり、それらの山間部では過疎地域が見られる。このような地理的事象が見られる中国・四国地方を人口や都市・村落を中核として学習することは、少子高齢化が進み、限界集落が日本各地で増加している今日、これからの社会の在り方を考えていく上でも大きな意義がある。

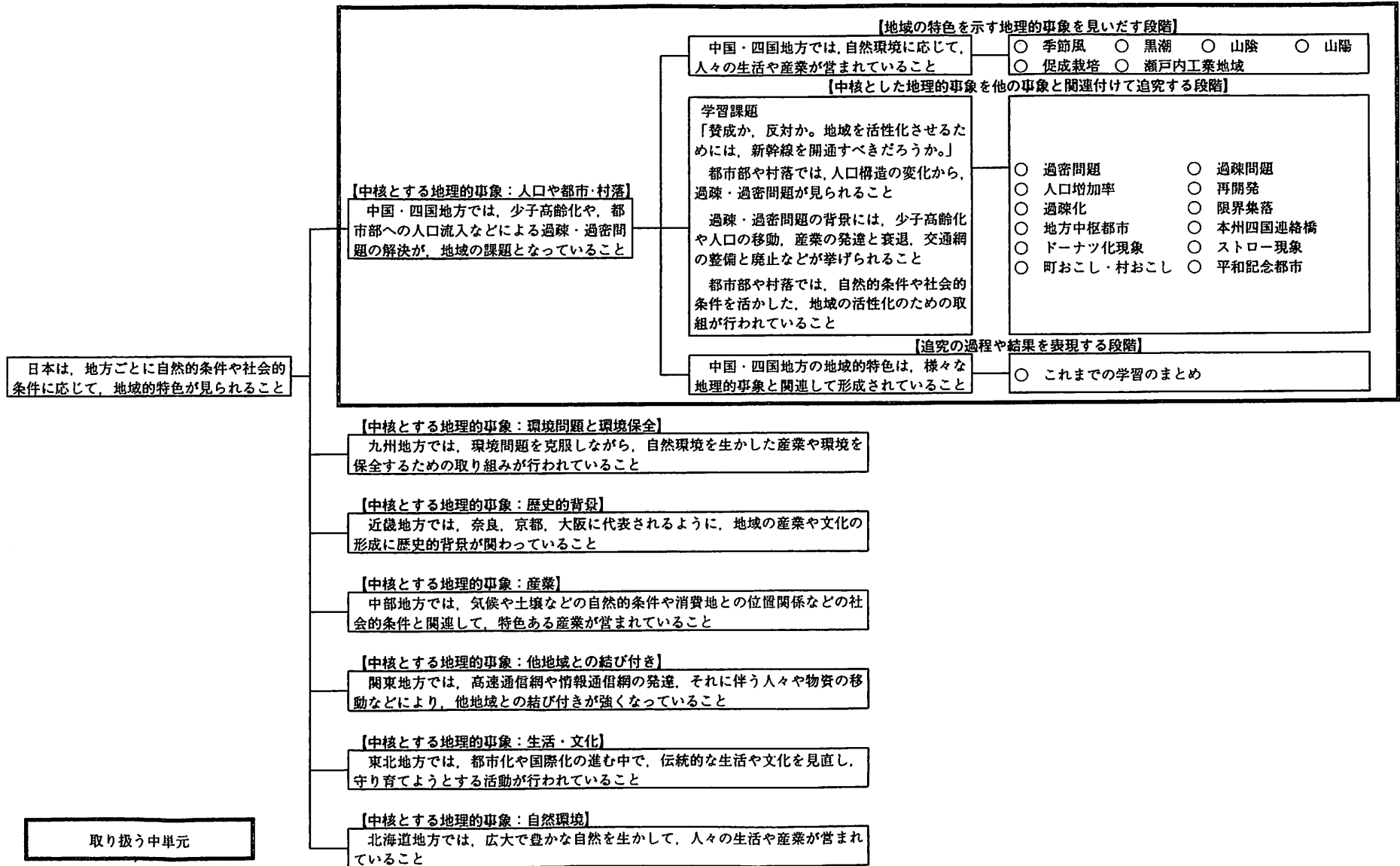
生徒は、アンケート結果によれば、都道府県の名称とその位置を間違える生徒が、愛媛県と徳島県との組み合わせが4名（10%）、鳥取県と島根県との組み合わせが4名（10%）いるなど、他の地方と比べると多く見られた。また、中国・四国地方を実際に訪れたことがある生徒は16名（40%）であったが、そのうち山陰2県、四国4県のいずれかを訪れたことがある生徒は5名（13%）に留まった。さらに、中国・四国地方の各県の特産物や観光地、産業等について思いつくものとして、讃岐うどん26名（65%）、原爆ドーム25名（63%）、みかん23名（58%）、鳥取砂丘23名（58%）などを挙げたが、山陰2県、四国4県は、他県と比較すると2つ以上答える生徒が少なかった。以上のことから、生徒は、中国・四国地方の地理的事象について、ある程度の知識はあるが、山陰や四国については、他の地方と比べると認知度が低いことが分かった。

指導に当たっては、まず、雨温図や統計資料、地図等を用いて、中国・四国地方の地域的特色を大観させ、個々の地理的事象を見いださせる。そして、中国・四国地方における、過疎・過密問題の背景や解決への取り組みについて考察させる。そのために、「賛成か、反対か。地域を活性化させるためには、新幹線を開通すべきだろうか」という学習課題を設定し、ジグソー法を用いて他者と協働して追究させる。過疎・過密問題などの地域の課題は、地域における自然環境、産業の発展と衰退、他地域との結び付き、歴史や伝統、文化といった人々の生活などの地理的事象と密接に関連している。それらのことに気付かせながら、新幹線の開通をめぐる地域の課題の背景や問題点について検証させ、意思決定・価値分析を行わせたい。その際、ツールミン・モデルを用いることで、資料である根拠や論拠を明確にして自己の主張を述べさせたい。そして、地域の課題を克服し、よりよい社会を形成しようと努める人々の取組について共感的にとらえさせながら、追究の過程や結果を表現させたい。これらの活動を通して、中国・四国地方の地域的特色を多面的・多角的に考察し、豊かで公正な社会認識をはぐくみ、主体的に社会に参画していく態度を養っていくことにした。

3 単元の学習内容の構造化

概念的な知識

基本的な知識



4 単元の目標

- (1) 人口や都市・村落を中核として、中国・四国地方の地域的特色について関心を高めさせ、意欲的に追究させる。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 中国・四国地方の人口や都市・村落における地域の課題について、自然的条件や社会的条件を有機的に関連付けて、多面的・多角的に考察させ、自分の言葉で表現させる。
(社会的な思考・判断・表現)
- (3) 人口や都市・村落における地域の課題の背景や解決に向けての取り組みについて、様々な資料から読み取らせ、ワークシートにまとめさせる。(資料活用の技能)
- (4) 自然や産業、他地域との結び付き、歴史的背景などと関連付けて、中国・四国地方の地域的特色を理解させ、その知識を身に付けさせる。(社会的事象についての知識・理解)

5 単元の指導計画と評価の重点 (全5時間) —— 評価 (授業中) —— 評価 (授業後)

| 主な評価場面と学習内容 (基本的な知識) | 時間 | 評 価 規 準 | | | | 主な言語活動の 具体的場面 |
|--|--------|--|---|---|--|---|
| | | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 | |
| <p>中国・四国地方の生活の舞台</p> <p>中国・四国地方の地域的特色について資料から読み取り 大観する場面</p> <p>○ 季節風 ○ 黒潮 ○ 山陰 ○ 山陽 ○ 促成栽培 ○ 瀬戸内工業地域</p> | 1 | | | <p>雨量図や統計資料、地図等から、中国・四国地方の地域的特色を読み取ったり まとめている。 【ノート】</p> | <p>中国・四国地方の地域的特色を自然環境や産業的特色と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。 【ノート】</p> | <p>《読み取り・解釈》</p> <p>雨量図や統計資料、地図等を読み取り、中国・四国地方の地域的特色について自然環境や産業的特色と関連付けて解釈する場面</p> |
| <p>中国・四国地方の人々の営み</p> <p>過疎 過密問題と関連付けながら、新幹線の開通をめぐる問題について資料から読み取る場面</p> <p>○ 過疎問題 ○ 過密問題 ○ 人口増加率 ○ 過疎化 ○ 再開発</p> | 1 | | | <p>適切に選択した資料を基に、新幹線の開通をめぐる問題について、個々の地理的事象と関連付けて、読み取ったり まとめている。 【ワークシート】</p> | <p>過疎・過密問題の実態やその背景について、個々の地理的事象と関連付けて その知識を身に付けている。 【ワークシート】</p> | <p>《読み取り・解釈》</p> <p>新幹線の開通に関する資料を読み取り 開通を要求する背景やその問題点を個々の地理的事象と関連付けて解釈する場面</p> |
| <p>個人による意思決定・価値分析</p> <p>新幹線を開通すべきかどうかについて 自己の主張を根拠と論拠に基づいて表現する場面</p> <p>○ 地方中核都市 ○ 本州四国連絡橋 ○ ドーナツ化現象 ○ ストロー現象</p> | 1 | <p>新幹線を開通すべきかどうかについて 同じ主張の者同士で、意欲的に追究しようとしている。 【観察】</p> | <p>新幹線を開通すべきかどうかについて、資料を基に考察し、適切に表現している。 【ワークシート】</p> | | | <p>《説明・論述》</p> <p>新幹線を開通すべきかどうかについて、資料を基に同じ主張の者同士で、自己の主張を練り上げる場面</p> |
| <p>協働による合理的な意思決定</p> <p>他者と協働して 新幹線を開通すべきかどうかについて検証する場面</p> <p>○ 可おこし・村おこし ○ 平和記念都市 ○ 限界集落</p> | 本 時 | <p>新幹線を開通すべきかどうかについて、主張が異なる他者とともに、意欲的に追究しようとしている。 【観察】</p> | <p>他者と協働して 互いの主張の背景や問題点を検証しながら、資料を基に考察し、適切に表現している。 【ワークシート】</p> | | | <p>《説明・論述》</p> <p>他者と協働して、新幹線を開通すべきかどうかについて検証しながら、留保条件を考察し、自己の主張をまとめる場面</p> |
| <p>中国・四国地方の地域的特色</p> <p>これまでの学習を振り返り 中国・四国地方の地域的特色について、表現する場面</p> <p>○ これまでの学習のまとめ</p> | 1 | | <p>追究した過程を基に、中国・四国地方の地域的特色について考察し、適切に表現している。 【ワークシート】</p> | <p>中国・四国地方の地域的特色に関する有用な情報を適切に選択して 読み取ったり 図表などにまとめたりしている。 【ワークシート】</p> | | <p>《論 述》</p> <p>これまでの学習を振り返り、中国・四国地方の地域的特色について 個々の地理的事象と関連付けながら、自分の言葉でまとめる場面</p> |
| 全5時間における各評価観点の配当時数 | | ② | 3 | ③ | 1 + ④ | ○数字は、授業後に行う評価の回数を表す |

5 本時の実際（4／5）

(1) 主 題 「賛成か、反対か。地域を活性化させるためには、新幹線を開通すべきだろうか」

(2) 本時の目標

ア 新幹線を開通すべきかどうかについて、主張の異なる他者とともに、意欲的に追究させる。
(社会的な関心・意欲・態度)

イ 他者と協働して、互いの主張の背景や問題点を検証しながら、資料を基に考察させ、適切に表現させる。(社会的な思考・判断・表現)

(3) 主題の考察

中国・四国地方は、古くから海上交通の要所として栄え、戦後、瀬戸内工業地域の発達とともに瀬戸内海沿岸に人口が集中している。近年、本州四国連絡橋や山陰自動車道などの交通網の整備も行われているが、過密地域と過疎地域の地域格差が広がり、地域の活性化が課題となっている。それを解決するために、新たな新幹線を開通して、利便性を高め、観光客を集めるなどして経済効果を期待する声も根強い。その一方で、四国遍路に代表されるように、長い歴史の中で育まれてきた風土や文化を守りながら、地域の自然、文化、産業などを活かし、地域独自の町おこし・村おこしを行うことで、活性化を図る地域も見られる。グローバル化や情報化が加速するとともに、少子高齢化が進み人口構成が変化していく中で、社会の変容にともない、多様な価値観が見られる今日、これらの課題と向き合うことは、よりよい社会の在り方について考えさせる好機となる。

生徒は、アンケート結果によれば、人口が少ない都道府県として鳥取県21名（53%）、島根県12名（30%）、高知県5名（13%）と答え、中国・四国地方には、人口が少ない県が多くあるという認識がある生徒が多いことが分かった。また、過疎地域から過密地域へ人口が流出する背景として、「就職先があるから」24名（60%）、「交通網が発達して便利だから」12名（30%）などと答え、過疎地域と過密地域の地域格差が広がる背景に、就職先を確保するための産業の発達や、交通網の整備等を結び付けて答えている生徒は少なく、個々の地理的事象を関連させて多面的・多角的にとらえられていないことが分かった。

そこで、指導に当たっては、前時までに考察した自己の主張に対する根拠と論拠を基に、「賛成か、反対か。地域を活性化させるためには、新幹線を開通すべきだろうか」という学習課題について、主張が異なる者同士が集まったホームグループ内で意思決定・価値分析を行い、合理的な意思決定に至らせる。そのために、資料を読み取り、同じ主張の者同士の集まりであるエキスパートグループ内で考察した結果を、ホームグループ内で共有し、主張の異なる他者ととともに、それらの背景や問題点を検証させる。そのようにすることで、個々の地理的事象の関連性を考察させる。そして、検証した結果を基に、新幹線を開通すべきかどうかについてホームグループとしての結論を出させる。ここでは、地域の活性化という共通した目標のために、留保条件を考察させながら合理的な意思決定を行わせる。その際、他者と協働して考察させることによって新たな価値に気づき、地域的特色をより多面的・多角的にとらえさせたい。さらに、新幹線の開通という交通網の整備だけに頼らない、地域の活性化の在り方について気付かせたい。これらの活動を通して、他者と協働して創造的に考える力やよりよい社会の形成に参画しようとする態度をはぐくんでいくことにした。

(4) 研究に関する指導の工夫

- 【自己の主張に内在する価値を明確にさせ、意思決定・価値分析を行わせる資料の工夫】
価値が内在する主張を設定し、それぞれの主張の根拠となる資料を用いて、論拠を考察させる。
- 【他者と協働して学習課題を追究させる指導の工夫】
ジグソー法を通して、資料や論拠を基に互いの主張を検証させ、合理的な意思決定を行わせる。

(5) 本時の展開 (4/5)

| 主な発問や指示 | 時間 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 主な情報提示の内容 |
|---|-----|---|--|---|
| <p><問題把握></p> <p>○ 前回の授業で報告したそれぞれの主張を確認しよう。</p> | 3分 | <p>1 前時の学習内容を振り返り、それぞれの主張を確認する。</p> <p>2 学習課題を設定する。</p> | <p>1 前時にエキスパートグループ内で考察した結果を、ホームグループ内でそれぞれの主張とともに確認させる。</p> <p>2 他者と協働して、学習課題を追究していく意欲を高めさせる。</p> | <p>資料1 整備新幹線の現状</p> |
| <p>賛成か、反対か。地域を活性化させるためには、新幹線を開通すべきだろうか。</p> | | | | |
| <p><本質究明></p> <p>○ それぞれの主張の背景や問題点について考えよう。</p> | 15分 | <p>3 それぞれの主張の背景や問題点について、資料を基に考察し、表現する。</p> | <p>3 互いの主張を批判し合うのではなく、それぞれの主張の背景を考察させることで、地域の課題や改善策について多面的・多角的にとらえさせる。 【教科論6-(1)-イ】</p> | <p>ワークシート トールミン・モデルを用いたワークシート</p> <p>資料2 2011年の都道府県別初回訪問者率</p> <p>資料3 四国新幹線、四国横断新幹線の経済効果の試算</p> |
| <p>【社会的な関心・意欲・態度】 他者と協働して、新幹線を開通すべきかどうかについて異なる主張の者同士で意欲的に追究しようとしている。</p> | | | | |
| <p>○ これまで話し合った結果を基に、グループ内で考えをまとめよう。</p> | 15分 | <p>4 留保条件を考察しながら、新幹線を開通すべきかどうかについてグループの結論を表現する。</p> | <p>4 グループでそれぞれの主張の背景や問題点を検証させながら、留保条件を考察させて、合理的な意思決定を行わせる。 【教科論6-(2)-イ】</p> | <p>ワークシート 相互の問題点等を考察させるためのワークシート</p> |
| <p>【社会的な思考・判断・表現】 他者と協働して、新幹線を開通すべきかどうかについて検証しながら、資料を基に考察し、適切に表現している。</p> | | | | |
| <p>○ グループで話し合った結果を発表しよう。</p> | 12分 | <p>5 グループで話し合った結果を背景や問題点、留保条件を明確にしながら発表する。</p> | <p>5 自分のグループの主張と他のグループの主張や、留保条件を比較させることで、新たな価値に気付かせる。</p> | <p>ワークシート 相互の問題点等を考察させるためのワークシート</p> |
| <p><洞察></p> <p>○ 地域を活性化させるために、中国・四国地方では、実際にどのような取組が行われているのだろうか。</p> | 5分 | <p>6 考察した留保条件と比較しながら、地域の実態に即した町おこし・村おこしにより、地域が活性化されていることについて理解する。</p> | <p>6 交通網の整備だけでなく、それぞれの地域の文化や自然、産業を活かして地域の活性化を図る人々の努力について、共感的にとらえさせる。</p> | <p>資料4 JR境線「鬼太郎電車」</p> <p>資料5 平和記念都市 ヒロシマ</p> |

□ は評価場面, ○ は授業中における評価観点, () は授業後における評価観点

(6) 主な資料

資料1 整備新幹線の現状



『国土交通省HP』より

資料2 2011年の都道府県別初回訪問者率

○ 2011年における初回訪問者が多い都道府県
 1位：高知県
 2位：徳島県
 3位：島根県・香川県
 以上4県では、5割前後を初回訪問者が占める。また、初回訪問者の構成比が高い都道府県については、ドラマで話題の島根県や龍馬人気と高速道路料金1,000円の影響か、高知県をはじめとした四国4県が上位を占める。その他、瀬戸内芸術祭が実施された岡山県を中心とした中国地方も上位に入った。

『旅行情報誌HP』より

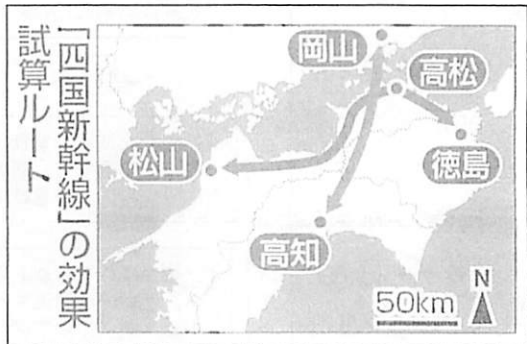
資料3 四国新幹線、四国横断新幹線の経済効果の試算

愛媛など四国4県とJR四国などで作る「四国の鉄道高速化検討準備会」は18日、四国の新幹線開通による経済効果が年間169億円に上るとの試算を発表した。投資効果が見込まれるとして、国に整備計画への格上げを要望することを決めた。

四国の新幹線計画が基本計画のままストップしていることを受け、準備会は新幹線効果を明確にするために、2013年6月から調査していた。

基本計画では、四国新幹線「大阪—徳島—高松—松山—大分」と四国横断新幹線「岡山—高知」の2ルートがある。調査では、海峡部を除いて「松山—高松—徳島」と「岡山—高知」のルートで経済効果を試算した。

事業費は基本計画の4兆7490億円が、海峡部を除外しルート短縮したことで1兆5710億円に圧縮。所要時間は、「松山—新大阪」が現在の3時間半から1時間38分に短縮されるほか、四国4県都が1時間以内で結ばれるとした。



『愛媛新聞社 2014/4/19』より

資料4 JR境線「鬼太郎電車」



資料5 平和記念都市 ヒロシマ

